MUKAI HIRONOBU

向井啓暢

むかい　ひろのぶ

1963年12月７日生まれ。福岡県福岡市出身。明治大学卒業後、大学院に進学し、政治経済学を学ぶ。卒業後は、塾や予備学校の世界史の非常勤講師、鹿島学園高等学校では地歴科教員を務めていた。趣味はニュースを見ること。

「生徒には自ら考え行動するようになってもらいたい。」

「北海道へは学生時代に旅行で来たことがありまして、函館市や札幌市、稚内市には行ったことがあります。道東へ来たのは初めてです。冬は結構寒いですよね。大丈夫かなぁ」そう言って微笑むのは、９月13日から久遠塾の新塾長として就任した向井啓暢さん。これまで、進学塾や予備学校で世界史の非常勤講師を務めたり、高等学校の地歴科教員として教壇に立っていた経験持つ。

「以前勤めていた高校は、積極的に校外学習を行っており、地域に根差した学校でした。今ではどの学校でも校外学習を実施していると思いますが、その中でも白糠高等学校は、町全体で生徒を育てているという気持ちの強さを感じました。これまでの自分の経験が、こちらで生かせるのではないかと思いました」

向井さんは社会見学や職場体験など、学校では体験できないことを学習することも大切だという。

「前の学校にいた生徒の話しですが、その生徒は自由研究でキャベツについて調べていました。キャベツがそこの名産だったんです。キャベツを調べるために農家へ取材していくうちに、キャベツ栽培が盛んであってもいろいろな課題や問題があることを知りました。生徒は、その問題を自分がなんとかしなければ、と考えるようになりました。そのために『県庁で働きたい』と言い出したんです。じゃあ、そのためにはどの大学へ進むのがいいか、その大学に入るためにはどういった勉強をしていけばいいのか、そうやって学校内での学習と校外での学習が結びついていくんです。こうした生きた学習が今後の進路を決めたり、働くことの意味を考える良いきっかけになります。これからの久遠塾では、そういった生徒の“気づき”のきっかけづくりをしたいと思っています」

向井さんの好きな言葉に『愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ』という格言がある。ドイツ帝国初代宰相ビスマルクの言葉だ。

「多くの失敗と成功を繰り返した上に歴史があるわけです。ですから自分の経験だけでなく、他者の失敗や成功を学ぶことが大切なんです。実際に日本も他国のいいところを取り入れて成長してきました。何かをしようとしたときに、考えて分からなければ、他者の成功例をマネしたらいいんです。そこに自分の考えや工夫を盛り込むことで、オリジナルになっていきます。私は、生徒には自ら考え行動するようになってもらいたいと思っています。これは社会に出てからも必要なことです。まずは難しく考えずに、自分の好きなことや興味のあることから始めたらいいんです。何か行動を起こすことが第一歩になるので、いろいろなことにチャレンジしてもらいたいですね」

「肉は、炭火で焼くのと薪で焼くのとではどちらがおいしいのか」そんな疑問からでも世界は広がっていくと話す向井塾長。